



# 富田東小だより

郡山市立富田東小学校  
学校便り No. 4  
令和3年 7月 2日  
文責：校長 齋藤和彦

“あたりまえのこと”を「あたりまえに」  
～子どもは大人の姿を映す鏡～

- あいさつをする（自然に）
- 返事をする（短く）
- 靴をそろえる（キチンと）
- 服をたたむ（きれいに）
- 話を聞く（静かに最後まで）



“あたりまえのこと”と思われませんが、これらを「あたりまえに」できることはすごいことなのです。【～平凡の非凡化～】

この姿は学校教育だけで育つ姿（習慣）ではありません。家庭・地域の躰（習慣）、つまり、子どもが大人（親）の後ろ姿を見て（魅て）まねるように身に付く姿なのです。

『当たり前が当たり前でできる』ということ

- 挨拶は、万物の礼儀であり尊重する心を育てる
- 返事をすることは、人を敬う心を育てる
- 靴をそろえることは、身だしなみを整える態度に
- 服をたたむことは、常に準備を怠らない態度に
- 話を最後まで聞くは、集中力を育み判断力を養う



朝の登校時..あいさつが返ってこない子には、「家で何かあったのかな?」「友達との昨日のトラブルをまだ気にしているのかな?」「何か心配な授業があるのかな?」等、考えをめぐらし、寄り添える仲間でありたいと思っています。大きな声で挨拶はするけど..“本当はあまり元気じゃないんだけど..”こんなサインが読みとれる教師になれたらいいなと思っています。が、やっぱり..気持ちのよい元気なあいさつが広がる朝になったらうれしいことです。

私たち職員も子ども達の鏡のふるまいを心がけていきます。(※あいさつ30%増)

『あいさつ』は、すると気持ちがいい?  
されると気持ちがいい?

大人や先生は、「あいさつすると気持ちがいい。だから、あいさつしましょう!」と子どもに言いますが..本当でしょうか?

『あいさつは、されると気持ちいい』のではないのでしょうか。(どう思いますか?)

ですから、私たち大人から先に子ども達にあいさつをして、気持ちよくしてあげましょう。～気持ちよくなった子どもは、いつか..きっと、あいさつを返してくれるようになることでしょう。(自分から先に..)

せっかくあいさつしたにもかかわらず、朝っばらから「声が小さい!」だの「元気がない!」だの「ちゃんと目を見て!」「やり直し!」等と言われたら、最悪の朝です。

だから..私たち大人の姿で、あいさつのよさを子ども達に感じられるように・わかってもらえるようにしたいのです。

◇◇ 保護者の声 (連絡帳や立ち話) ◇◇

・娘の登校班は、元気よく挨拶する子がいないことを以前から残念に思っていました。聞くと「皆がしないから恥ずかしい」とのことでした。親としては、元気な挨拶ができる東っ子であってほしいと願います。(略)

ひと昔は..帰りの時間になると、子ども達の挨拶がうるさいくらいで大変だったんですよ。近所から「うるさい」と苦情が来るんじゃないかと心配するくらいでした。(自慢)

～連絡帳おたより..ありがとうございます。今も昔も学校の課題～あいさつ・ろうかの歩行・無言清掃..一時的なお祭り戦略でなく、中学生になっても大人になっても..確かに残る「あいさつ姿」を育てたいのです。

<学校生活の様子を掲載しています>  
～子ども達の笑顔や活躍の姿です～  
【富田東小ホームページ】検索ください

